

て	が	し	て	よ	う	空	普	た	れ	カ	曾		て	葉	て	と	じ		
し	た	た	い	う	な	一	通	り	ま	か	祖		い	を	笑	旅	る	平	
ま	。	っ	る	な	も	面	に	、	し	ら	母		な	調	っ	行	と	和	
い	。昨日	た	人	雨	の	が	学	学	た	の	は		い	べ	た	に	き	っ	
ま	まで	一	を	が	が	ま	生	校	。それ	大	、今		状	て	日	行	は	っ	
し	笑	日	ま	ド	空	ぶ	活	で	まで	襲	の		態	て	ど	っ	。お	何	
。曾	つ	ど	た	バ	から	し	を	勉	は、友	で	私		と	い	こ	り	い	だ	
祖	て	ろ	ま	ッ	大	い	送	強	達	と	の		、	る	か	、	し	ろ	
母	いた	か	た	と	量	光	っ	を	、	つ	年		戦	と	、	友	い	う	
は	た	、	っ	降	に	に	て	し	運	も	十		争	達	時	達	も	。私	
、	た	た	た	つ	覆	覆	い	り	動	な	歳		や	と	、	何	の	が	
こ	つ	つ	た	て	わ	わ	ま	、	会	い	に		暴	気	食	気	を	、	
の	た	た	の	、	れ	れ	し	運	を	ら	の		力	な	べ	な	食	平	
話	の	の	数	必	た	た	。あ	動	し	い	時		で	い	たり	だ	べ	和	
を	秒	秒	秒	死	瞬	瞬	る日	会	た	の	、		社	会	、	な	た	あ	
涙	で	で	で	に	間	間	、	を	。あ	ア			会	話	あ	あ	と	感	
を	消	消	消	倒	、	、	鎖	し	る日	メ			が	を	と	と	感		
流	え	え	え	れ	の	の	の	たり	、	リ			乱	し	し	し	族		
													れ	言	し	し	族		

しながら何度もくり返し話します。そしてその話の後には決まって、一戦争はあかん。何で分かるか。生きている方が気持ち的に辛くなるんや。そんなのおかしいやろ。でもなおまえの名前には、優しいという言葉が入ってるやろ。優しさがお花のような笑顔を咲かすんやで。生きてるってことは、本当はともも素晴らしいことなんやで。」とニコツとした笑顔で、曾祖母はそう言います。

今年は、東日本大震災からちょうど十年が経ちます。二〇一一年三月十一日、二時四十分、この時間を境に平和という何気ない日々が、混沌とした日々に変わりました。多くの人々が亡くなり、未だ行方が分からない人たちもいます。今、東北の人たちは幸せなのでしようか、平和がおとずれたと実感しているのでしょうか。しかし、多くの人達の優しさにより復興をとげていると知り嬉しくなりました。私は、平和と感じていても、そこに終わりはなく、おとずれた悲劇は決して消え

ることにはないのだろうと思います。最後に世界に平和に目を向けました。今飢餓の人口は、世界で八億人、世界人口の九分の一で、飢餓人口三分の二が私たちの住んでいるアジア地域に集中しているそうです。正直、こんな身近なところではこれほどまでに悲惨な状況であることの驚いたと同時に、自身が無力さを感じずにはられませんでした。あるテレビ番組の特集で、インドの子供たちが紹介されていました。お腹をぽっこりとふくらませた男の子、女の子がとてもきれいな白い歯を出して笑顔で答えていました。登校時間は片道四時間、帰ってくるたびに片道二時間の川に水をくみに行つて家族のためには、この男の子たちはほんの一瞬の様子しか分かりませんが、その笑顔は本当に幸せそうでした。平和を感じました。一生きてるって素晴らしい。曾祖母の言葉をふと思ひ出しました。

「平和」という言葉を発するとき、それが

意味するものは一人ひとりが過ごした場所や
関わってきた人など、育った環境や今置かれ
ている状況によっても大きく違っているのだ
と思います。平和に共通していえることは、
親からいただいた命を大切にすること。だれ
もその命を粗末にする権利はありません。そ
して、思いやりの気持ちを持つことなのだ
と思います。新型コロナウイルスで、私たちは
当たり前前の日常がいかに平和であるかを思
知りました。同時に、医療従事者の方々、地
域の方々、親や友人、みんなに支えられ今を
生きていられます。これまでの様々な悲劇を
絶対に風化させることなく、私にできるどん
なささいなこと、平和な社会への希望とし
て、笑顔でやりぬいていきたいです。そして
私の名前「優花」に恥じぬよう、もっともつ
と私自身、心の財産を貯めて、たくさんの笑
顔の輪を作りたいです。そして、今年の夏に
平和の象徴である東京オリンピックが開催さ
れることを楽しみにしています。